

舟入20期同期会便り

2001年7月
(第4号)

第4号発刊によせて 末田義博(同期会世話人代表)

まず、3年続けることが目標だった同期会だよりも4年目を迎える。今後も、無理をせず、しぶとく長く続けようと思っている。年を重ねるに従って青春の出来事や現在の心境を記録したくなるのは、僕だけだろうか。その時々を思いを綴っておくことは後々、きっといい思い出になると確信している。記憶力が途切れないうちに、できるだけ、筆まめに自分の人生を記録しておこう。自分の人生は唯一かけがえの無いものだから。そして、子供に、残しておこう。かっこをつける必要は無い。飾る必要も無い。愛する人のために自分の生きざまを残しておこう。

なお、例年のことながら、今年も同期会費及び同窓会費の納入をよろしくお願い致します。
また、同期生の住所等異動情報をお知らせ頂ければ幸いです。(渡辺潔まで)
最後に、同窓会への協力、千田保育園への支援も合わせお願い致します。

同期会(平成12年10月14日)の報告 赤峰(旧姓大越)敬子さん(3年9組)

舟入・市女同窓会は、例年8月にホテルで行われていましたが、昨年は10月14日に母校「舟入高校」で開催されました。舟入側出席者、会費、マンネリ化が顕著である等の理由で、今回は場所、費用を変更し、新たな企画(鈴木健二さんの講演会)なども盛り込んでの実施となりました。その後、夕方からは各期に分かれて同期会も開催され、我が20期も「県民文化センターで」実施しました。今回は恩師の招待もないミニ同期会となりましたが、北は北海道・東京・大阪、南は福岡などの各地からご参加いただき、卒業以来はじめてお会いできた方も多く、出席者はいつもより少なかったのですが、一人一人が懐かしく、また楽し歓談でき、充実した時を過ごせたようです。二次会ではカラオケに行きいつまでも名残が尽きないようでした。

私達お世話をさせていただいた者にとっても、出席された皆様が久しぶりに会った学友と楽しそうに語り合う姿を拝見するにつけ、準備段階での苦労も忘れ、この会を企画してよかったと実感しました。ご出席いただいた皆様方に心よりお礼を申し上げます。さて、第24回同窓会の時期がやってまいりました。次の要領にて実施されますのでご案内いたします。

一人でも多くの方にご出席いただければとの願いを込めて、私の報告とさせていただきます。

開催日時 : 平成13年8月18日(土) 開催場所 : 全日空ホテル
スケジュール : 1部 = 総会 15:00~15:30 2部 = 懇親会 15:30~17:00
費用 : 前売り券 4,500円 当日券 5,500円



大越敬子



広島市立舟入高等学校20期生 同期会 2000年10月14日 於: 広島県民文化センター

多感な15~18歳(今の子供達を通して思うこと) 小野(旧姓前田)幸美さん(3年7組)

「ガリ勉 舟入」当時の学校に対する私の印象です。中学時代に持っていた高校生活に対する夢は、入学後間もなく打ち砕かれました。

1年生の時の担任は現国の山田先生で、高校に対して不満一杯の私は、先生の所に行き「学校を止めたい。」と、相談したのです。先生は私の話を包みこむ様に聞いて下さり、そして、諭してくださりました。諭されたと言っても15歳の多感な私の中には、「アキラメ」が宿ってしまいました。ガチガチの校則の中で、ガリガリ勉強して何が残るか……制服を改造し、クラブにうつつを抜かし、帰りには本通りで途中下車、家に帰っても鉛筆一つ持つ訳でも無く、そんな私でも学校を辞めなくて済んだのは、良い友達に逢ったオカゲでしょう。

若い頃、快樂主義の遊び人と、自己評価していたけれど、今、考えると、本質的にはマジメで妥協の出来ない如何しようもない性格なのです。(そう思うのは、自分だけかも……)

今時の若者が、「何故?如何して?」と、思い学校を辞めたり、引き籠もってしまうのか解る様な気がします。籠もってしまうタイプはマジな子が多いのでは……何故?如何して?と、自分の周りの人達に振り回される事を嫌い自己防衛をしている様に思えるのです。

今時も私達の学生時代も親が子に期待するのは同じです。ただ違うのは、昔は親の目が子にばかり向いていらなかった、生活に追われていて、子供自身が何時の間にか物事を処理させられていたと言う事実。

ただ単に、頭で考える「何故?如何して?」と言う疑問が、「生活をして行く上で、どの様にすれば良いか。」と言う結論を編み出して来るのだと思うのです。今の子供達は苦しい生活を垣間見る事もなく、ほんの少しのアルバイトでお金が手に入り、何処にも責任を負う事無く生活出来てしまう、幸せなのか否か……。アキラメから何とか生きて行かなければならないと、気持ちが変化して行った私の高校3年間……”あのギスギスのガリ勉舟入”だったから、家で勉強しない私でも何とか薬科大学へ進学出来たと今となっては感謝して居ります。

然しながら、落ちこぼれには、救い様の無い舟入のシステムだった様な気がするの私だけでしょうか?



前田 幸美

自然の大切さ 佐々木(旧姓新見)正枝さん(3年12組)

「中高年からはじめる登山」が今や大流行ですが、わたしも数年前から始めました。同好の仲間と近隣の山歩きが主ですが、時々遠出をして日本百名山に名を連ねている山に行くこともあります。四国の剣山で山頂山小屋のご主人から聞いた、登山者が捨てるごみとのイタチゴッコの話や珍しい植物の盗掘持帰りによる減少など、胸の痛むような話がたくさんありました。私たちの努力で自然保護に努め、四季折々の自然を孫子の時代へ繋いでいくために、今出来ることを続けて行かなければいけないと思っています。

自然と言えば、我が家の周りの田んぼには水が引かれ、カエルがにぎやかに鳴き始めましたが、最近、高齢化による農業の担い手不足と広島市が進める“脱サラ農業研修生”による野菜のハウス栽培とが結びつき、水田がビニールハウスに取って代わっています。四季を感じられない無機質な風景が広がりつつあります。食糧の自給率をいまさら8、9割にまでとは言わないけれど、日本が世界に誇れる原風景である「田んぼ」を荒れ放題にし、年間数日だけ稼働する農業機械のためにますます採算が取れなくなった日本の米作り。季節に応じたいろいろな野菜作りをするから“お百姓”と呼ぶのだそうですが、年中同じ野菜だけをハウスで育て、いつが旬か分からない野菜ばかりが店に並んでいます。これだけ四季がはっきり移り変わる国で、政策によってその四季をますます感じられなくしていくのはおかしいと思うのです。

農業国営化を考えるのはおかしいでしょうか?ご意見をお聞かせください。

同期生の活躍 末田文孝君(3年10組)

現在、的場町でレインボーパークを運営しています。オープンして今年9月で満5年になります。運営は大変厳しい状況です。時々、同期生の古前君が立ち寄ってくれます。古前君は市内でも有名な写場の経営者で、企画のホテルでの結婚式等の撮影の仕事で来ているようです。とても背が高く恰幅もよく、いつもスーツで決めています。社長業も身に付いているようでとても頼もしく見えます。



末田 文孝

古前 隆士

今思う昔の自分 大深(旧姓松田)明子さん(3年4組)

同期会へは、なかなか出席の機会がないまま、お世話してくださる方達が発行されている会報をなつかしく読ませていただいていた。

今回、同じ町内に住む中脇(講元)さんから、原稿依頼を受け、たまたま五月の連休に細見(沖田)さん、高山さん、そして卒業以来始めて船井(名越)さんと四人で会った直後で、丁度良いタイミングでした。細見さんと高山さんとは年一回くらいですが三人で会う機会をもってきました。わたしは、夫と娘三人、義母の六人家族で、広島市の児童館職員として働いています。細見さんは建築家として、高山さんはピアノ教師として、お互いに刺激をもらいながらのおしゃべりを楽しんできました。また、今回は思いがけず船井さんにも会うことが出来、懐かしく高校時代の話に花が咲きました。

通学していた頃は舟入高校はガリ勉のイメージで、先生方も広大進学のことしか頭がないような印象でした。

クラブ活動や友達との楽しい思い出がなければ、つまらない高校時代だったと感じていました。大人になり、人生五十にもなれば、遠く感じていた先生達にも生徒の方からもっと気軽に話をしていけば、心を開いてうち解けた話も出来ただろうし、もっと充実していただろうと思ったりもします。固いイメージのなかで、自分も固く未熟だったのでしょう。

四月の連休に末娘のバスケットの区会場で、同じく末のお子さんの試合を観戦にきていた青野(旧姓)さんに偶然出会いました。高校時代バスケをしていた彼女に印象のまま話をする事ができました。

遠くにいる友人とはなかなか会えないのが残念ですが、同級生という言葉は、歳を重ねても、どこか青くなつかしい響きがあって、近すぎず、離れすぎず良い関係が続けていけたらいいなと思うこの頃です。



更年期真っ最中 船井(旧姓名越)愛子さん(3年5組)

子育てもほぼ終わり、人生の半ばを過ぎ一段落しますと、ふと学生時代が懐かしく思われるこの頃です。

これまでは、なかなか同窓会に出席できませんでしたが、去年久しぶりに参加して楽しいひと時を過ごすことが出来ました。懐かしい顔に出会え、直ぐにわかる人とそうでない人がいて年月の流れを感じずにいられますでした。

高校卒業以来、それぞれの人生を歩み、再び会えたことを幸せに思いました。これも一生懸命にお世話をしてくださる役員の皆様のおかげと感謝しております。

夫は同窓会の案内状を受け取ったことがなく、羨ましい様子で見えておりました。

私は、只今更年期の真っ最中、日替わりメニューであちこち痛くなりボヤいています。時代に遅れまいとパソコン・携帯iモードに挑戦しておりますが、若い頃のようにはいきません。脳細胞が不足しており、悪戦苦闘している状況です。

また同時にウォーキングを始めました。歩き始めると車から見る風景と違い、新しい発見があって、何故か清々しい気持ちになれます。

近い内に高校時代の自分を思い浮かべながら舟入高校までウォーキングするつもりです。これからも頭と体の若返りに努力し、いつまでも健康でありたいと願っております。



楽しみな再会 小淵(旧姓山本)真知子さん(3年8組)

今回二度目の同期会参加となりました。娘の友人のお母さんに声をかけてもらい参加することになりました。(娘同士、旅行先の会話の中で、25年生まれて舟入高校ということが発覚、ビックリです)偶然所在のわかったばかりの旧知の友人に声をかけ、一緒に参加しました。

同じ趣味に夢中の人も発見(再会を楽しみにしています) あっという間に時間が経ってしまいました。自分にとってさほどの思い出もなく、とても遠いところにあった舟入ですが、持つご縁に驚き喜んでいきます。



卒業して30年。いろいろな人生を感じました。次回も楽しみにしています。お世話してくださった皆様、ありがとうございました。私も声かけのお手伝い位はしたいと思っています

千田保育園について 末田 義博君(3年4組)

千田保育園は、昭和23年学制改革で母校を失った旧広島市立高等女学校同窓生が、復興期の広島の町に「復興のために立ち上がって働く親たちの子どもを預かる施設を作ろう。」と建てられました。

市女初代校長 今堀友市先生の「ゆりかごを動かす手が世界を動かす」の理念のもとに、現在の社会福祉法人二葉会を設立し、昭和28年9月22日に職員3名、園児数60名で保育園を開園しました。

経営にあたる市女同窓生が、心を一つにして無私の心で保育園を支えてきたもので、平成12年9月22日をもって47周年を迎えます。

一方、園舎も築30年が経ち老朽化のため建替えることとなり、この度、保育園東隣の市助役公舎跡地を無償で借りることとなりました。

これを機に、園児数を250名に増員し、待機児童の解消と同じに安心して子育てのできる環境を整備したいと願い、国・市と相談の上、平成13年7月に、工事着工の運びとなりました。

建築資金については、約4億円の大事業となり、自己資金約4,000万円が必要で、二葉会の自己財源では賄いきれない部分を、一女・舟入の同窓生の方々に寄付を呼びかけたところ、多くの方々からご理解を頂き、予定額を上回る約1,000万円のご協力を頂きました。

中谷ミサ子様(二葉会理事長)及び竹田雅子様(二葉会後援会長)から、舟入の方々にくれぐれもよろしくとの依頼があり、この場を借りて、お礼申し上げます。

今後は、舟入側も、ますます、保育園の健全な運営に対して、協力体制を取ることが大切だと思われるので、皆様のご協力の程をお願い致します。



友情とゆとり 石川一司君(3年12組)

先日 末田君より同期会便りの原稿依頼がありました。文章を書くことの苦手な私は、しばらく放置。催促の電話、やっと思いつくままに書くことを決意した。

以前私は、広島青年会議所という青年経営者の集まりに在籍していました。その青年会議所には“友情”“奉仕”“修練”という三つの信条があります。この原稿は私に与えられた“修練”として受け止め、書き始めます。

十余年前、高校卒業後初めて偶然に植木君と出会いました。彼はパン屋、私は植木屋。たまに会うとお互いの零細企業の経営や従業員の教育についての悩み事を話していました。

実直で一生懸命に働く彼の姿を見て、ふと、同級生に会って古い友情を暖めてみるのもいいかなと思い、級友に声をかけてみました。最初は5名でしたが、いつの間にか異業種交流の場となり、現在は十名余りとなりました。職業も銀行員、自営業、会社役員、公務員、教師等多岐にわたり、実にポテンシャルエネルギーの高い集まりとなりました。しかしながら話題は、近況報告する程度で、一杯飲みながらただ喋っているに過ぎません。顔の皺、白髪の本数までも人それぞれの人生を語っていますが、一度会うと三十年の年月を忘れてしまうのが同級生でしょうか。十余年長く続いているのも気軽に会えるからでしょう。お互いの友情を大切に、これからもずっと続けていこうと思っています。元気である限り。

私事で恐縮ですが、創業七十年になる家業の造園業を継いで二十余年経ちます。私の仕事は、環境整備の名のもとに、経済性を優先する余り生きている樹木を伐採し、新しい樹木を植栽するという、一方で環境を破壊し、他方で環境整備をするという矛盾を抱えています。都市化が進むたびに緑を失い、季節の風物詩や蝶やトンボを目にすることも少なくなりました。快適さ、経済的、物質的豊かさ引き換えに失ったものの大きさに気づくときかもしれません。松尾芭蕉の俳句に“山路来て なにやらゆかし すみれ草”という句がありますが、経済及び産業の発展という山道を一生懸命に登ってきました。可憐に咲く一輪のすみれ草を見る“心のゆとり”が持てるといいなと思う今日この頃です



同期会収支報告 平成 12 年 1 月 1 日～平成 13 年 3 月 31 日 会計 渡辺 潔

	収 入	支 出	残 高
前年度からの繰越	316,868		316,868
同期会年会費(128名・過年度分1名)	132,000		
舟入・市女同窓会年会費(110名)	110,000		
同期会会費(12.10.14 49名)	294,000		
同期会便り印刷代・送料他		57,920	
同期会案内はがき代・印刷代他		37,000	
同期会費用		248,260	
同期会写真代・送料		39,240	
大石学氏,高萩泰典氏香典・弔電・書留料		20,000	
名札ケース他事務用品代		33,770	
その他通信諸費		17,601	
舟入・市女同窓会費(案内郵送料控除後)		80,000	
	852,868	533,791	319,077
次年度繰越		319,077	
合 計	852,868	852,868	

訃 報

次の方がご他界されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

9組 大石学 様(平成12年9月24日すい臓ガンにより)

4組 高萩泰典様(平成13年3月6日業務中の事故により)

合 掌



編集後記

今年も同期会便りを皆様の手元にお送りすることができ、編集に携わった者一同、大変喜んでおります。今後も、同期生の情報紙として充実させていきますので、お気軽に情報をお知らせ下さい。なお、重ねてのお願いですが、同期会費ならびに同窓会費につきましてご協力のほどお願いいたします。